



第28号

(発行所)

真宗大谷派

松岡山 廣讚寺

中村区城屋敷町3-30

TEL(052)411-5301

FAX(052)411-5341

「念仏者は」

御文第二帖に

「文明六 二月十五日夜、大聖世尊入滅の昔をおもい

いでて、於燈下 拭老眼 染筆畢滿六十」

につづいて「文明六 二月十六日 早朝に俄に染筆畢而

己ヌ」

さらに「文明六年二月十七日書之」

の三文章が連日つくられている。三文の内容は次の通りである。

「無上の誓願を何とように心をもちて何とように弥陀を信じて、彼の浄土へ往生すべきをくわしくおしへるであらう（二月十五日）門徒自身が自分勝手に信心かほして聴聞もおろそかにして門徒・同朋を勸化する儀もおろそかになっておる（二月十六日）また事のほかには王法を

もっておもてとし、内心には他力の信心をふかくたくわえて世間の仁義をもって本とすべきである（二月十七日）」

この御文作成の背景をみるに

文明三年五月、上人は吉崎に下向されている。吉崎道場は九月に設立されている。二年後すなわち文明五年正月、上人は吉崎退去をきめられている。多屋衆は十月に決戦をきめ文明六年七月、一揆は大勝利を得ている。

蓮如の吉崎時代は波乱万丈である。自身の念仏布教という情熱、それによって人間性を取り戻した農民。悪政極まりない旧領主の政治。中世からの解放。旧新仏教相克。歴史は大潮流となって動いていたのである。ただ重要なことは蓮如は一度も武器をとって戦うべきだとはいわなかったことだ。念仏者と政治は永遠の宿題かもしれない。宗祖聖人も関東での念仏弾圧のときに上洛してみえる。避けて通るのか、天下国家安穏なれと念ずだけなのか、イスラエル・パレスチナは果てしなく相殺がつづいている。



世のお母さん方に

陶淵明の「責子」について

○五男児有りと雖も 総て紙筆を好まず

私は五人の男の子にめぐまれましたが、すべて勉強きらいばかりです。

○阿舒已二八 懶惰故無匹

長男の阿舒は十六になりますが、この上もないなまけものです。

○阿宣行志学 而不愛文術

次男の阿宣は学問に志す年齢になっているが、文学の文の字も知りません。

○雍端年十三 不識六与七

双子の雍と端は十三歳になりましたが、いまだに六と七の区別がわかりません。

○通子垂九齡 但覓梨与栗

末っ子の通はまだ梨なしや栗くりがほしいばかりです。

○天運苟如此 且進杯中物

どんな子供が生まれるかは天運次第です。まあお酒でも飲むとするか。

世のお母さん方よ、

あまりくよくよせ

ずに、その方がい

い子が育つらしい

ですよ。



去

春

えみ女

思ひつきりドラム叩たたいて卒業す

柚そまの径みち白木蓮もくれんの花あかり

黒門の街行きどまり白木蓮

稚育ややつ一両ごとの木木芽吹き

うばざくらゆばの料理の至福かな

都三さんから次の文をいただいた。

平成二十二年四月二十一日、JA年金友の会主催の

「生きがい塾」に参加。その感想文である。

講師は稲垣一映さんである。

「現代日本人は物を大事にしない。もつたないことだ」

「物が豊かになることは人間の心のまずしくなることだ」

「私たちの一番大事なことは家族の絆きずなである」

「一番寂しいことは子供から捨てられた親の気持ちであ

る」

「生きてゆくということは苦労を重ねることであり、そ

れをまた喜ぶことでもある。ひよっとしたら苦労を喜ぶ

のが楽しい人生かもしれない」

「いずれにしても『自分が親に対してどれだけのことを

したか』を考えてみることだ。周りをみて、とやかくい

わないで自分の内心をみつめてはどうであろうか。念仏

・念法はそこからはじまるものだ」

# ※行事予定

七月十日(土)七時半 同朋委員会(役員は六時半)

十八日(日)六時半 納涼大会

金魚すくい・輪なげ・

ビンゴ大会など…

楽しい催しものがいっぱい。

どなたでもご参加下さい。

(雨天決行)

十九日(月)九時 後片付け

二時～四時 学習会

二十八日(水)十時 二十八日講・女人講

八月十四日(土)七時半 同朋会(役員は七時)

十九日(木)二時 学習会

二十八日(土)十時 二十八日講・女人講



## 【20組行事案内】

● 八月二十八日(土) 一時半～三時半

ご命日の集い

中村区太閤三ー五ー十七 大誠寺にて